

西尾市沿岸域における混系乾ノリの生産動向

川村耕平

(2019年11月20日受付, 2019年12月10日受理)

Trends in the production of dried nori-green laver blends in the coastal regions of Nishio City, Aichi Prefecture

KAWAMURA Kohei*

キーワード: 混系乾ノリ, 生産枚数, 生産金額, ノリ養殖, 三河湾

愛知県漁業協同組合連合会 (以下: 愛知県漁連) では, 乾ノリ 1 枚あたりに一定以上のアオノリ類が含まれた製品については混系乾ノリ (以下: 混系) として, アオノリ類を含まない黒系乾ノリ (以下: 黒系) と系列および等級を区分している (表 1)。近年, 三河湾に面した西尾市沿岸域のノリ養殖漁場 (図 1) で生産された混系は黒系を

上回る価格で入札されることが多く, 漁業者の関心を集めている。¹⁾ しかしながら, 混系の生産枚数, 生産金額や黒系と単価を比較した報告は見当たらない。これらが明らかになれば, 漁家経営上有益な資料となると考えられる。本稿では, 平成 26 年度～平成 30 年度の共販結果から混系と黒系を区分して集計し, 西尾市沿岸域における混系の生産状況を明らかにすることを目的とした。なお, 本稿における年度はノリ年度 (7 月～翌年 6 月) を示している。

表 1 乾ノリ製品に含まれるアオノリ類に関する等級区分

系列	等級	概要
混系	混	製品 1 枚あたりに米粒大のアオノリ類を 6 個以上含む。
	飛	製品 1 枚あたりに米粒大のアオノリ類を 1～5 個含む。
黒系	-	製品中にアオノリ類を含まない。

材料および方法

平成 26 年度～平成 30 年度の 5 年間に行われた共販に出荷された乾ノリの等級, 生産枚数が記された出荷明細書および入札された価格が記された入札速報を参考として, 年度毎に各共販の混系および黒系それぞれの生産枚数と生産金額を集計した。混系が多く確認される第 1 回～第 3 回共販については, 混系を「混」および「飛」等

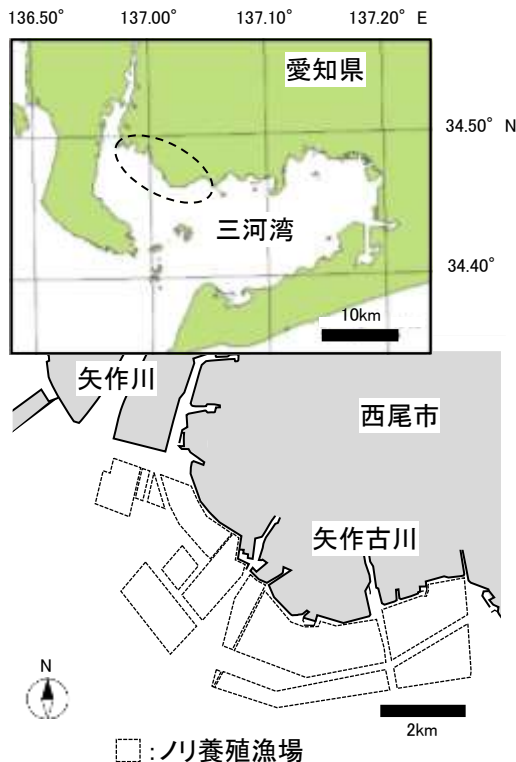


図 1 西尾市沿岸域のノリ養殖漁場

* 愛知県西三河農林水産事務所 (Nishimikawa Agriculture, Forestry, and Fisheries Office of Aichi Prefectural Government, Myoudaijihonmachi, Okazaki, Aichi 444-0860, Japan)

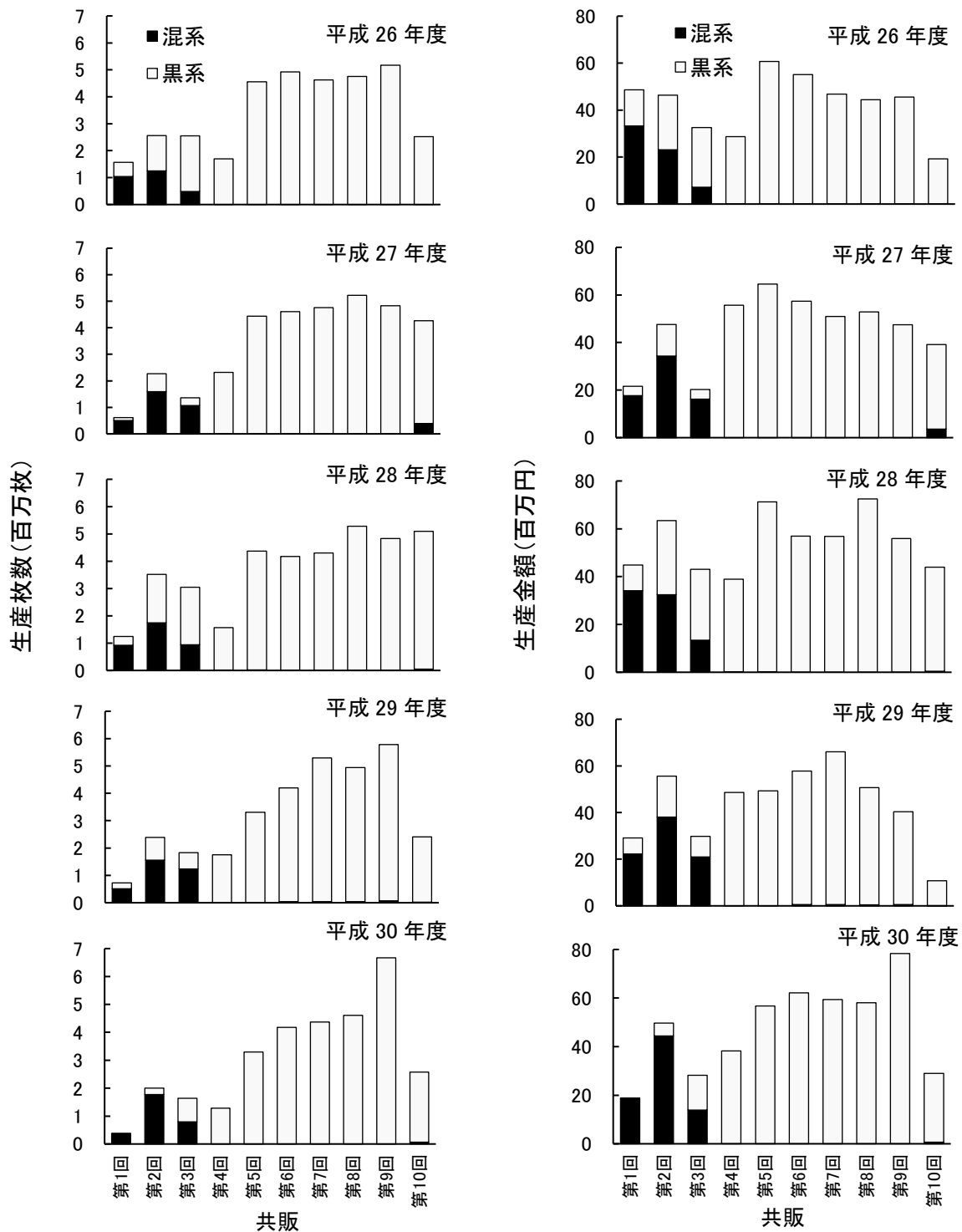


図2 混系（混および飛の合計）および黒系の各共販における生産枚数および生産金額

級に分けて、生産枚数に占める割合（%）および平均単価（円/枚）を算出した。ただし組合によっては、その漁期中に生産された製品のうち特にアオノリ類を多く含むものについて、「バサ」という独自の等級を設けている場合が認められた。バサについては、愛知県漁連の基準を採用すると混に含まれることから混に含めて分析した。

結果

平成 26 年度～平成 30 年度の各共販における、西尾市沿岸域で生産された混系および黒系の生産枚数と生産金額を図 2 に示した。各年度の混系の生産枚数は 277 万枚～369 万枚で推移し、乾ノリ生産枚数の 8%～11%を占めていた。混系の出荷は第 1 回共販～第 3 回共販までが大部分を占めており、各年度の混系の生産枚数のうち 89%

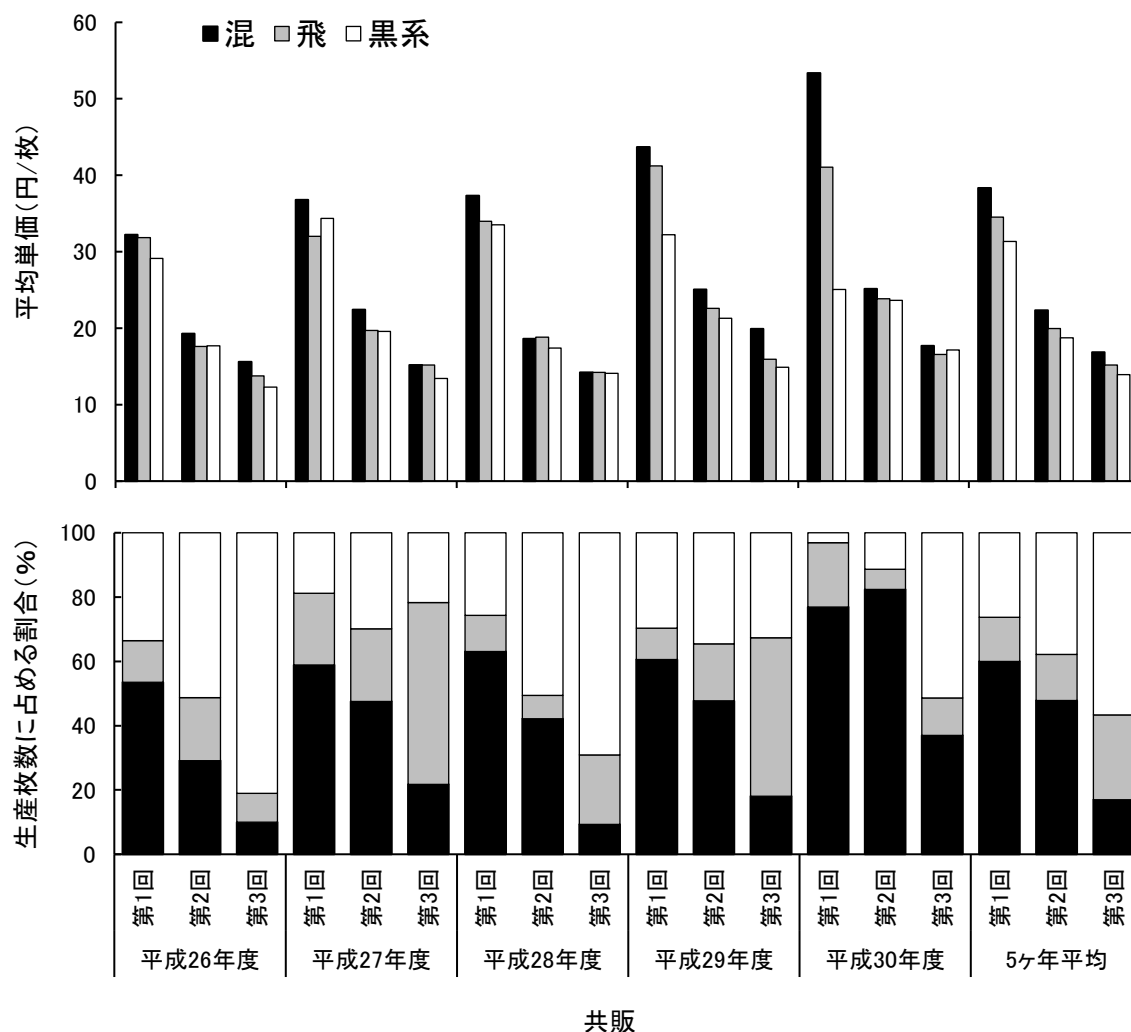


図3 第1回～第3回共販における混系（混および飛）と黒系の平均単価（円/枚）および生産枚数に占める割合（%）

～100%に達した。

各年度の混系の生産金額は 6,356 万円～8,334 万円で推移し、乾ノリ生産金額の 15%～19%を占めていた。生産金額についても第1回共販～第3回共販までが大部分を占めており、各年度の混系の生産金額のうち 95%～100%に達した。

第1回～第3回共販の混系について、混および飛等級に分けて平均単価（円/枚）および生産枚数に占める割合（%）を算出した（図3）。混系および黒系ともに同一年度では第1回共販が最も平均単価は高く、共販回数が進むにつれて低下していく傾向は同じであった。

各年度の第1回共販についてみると、調査した5年間全てで混の平均単価（31.89円/枚～53.35円/枚）が最も高かった。次いで飛の平均単価（31.86円/枚～41.23円/枚）が高い場合が多かったが、平成27年度は黒系の方が飛よりも平均単価が高かった。黒系の平均単価は 25.08

円/枚～34.34円/枚であった。

第2回共販についてみると、混の平均単価（18.63円/枚～25.15円/枚）が最も高い場合が多かったが、平成28年度は飛の方が混よりも平均単価が高かった。次いで飛の平均単価（17.62円/枚～23.84円/枚）が高い場合が多かったが、平成26年度は黒系の方が飛よりも平均単価が高かった。黒系の平均単価は 17.41円/枚～23.63円/枚であった。

第3回共販についても混の平均単価（14.22円/枚～19.91円/枚）が最も高い場合が多かったが、平成27年度および平成28年度は飛の方が混よりも平均単価が高かった。次いで飛の平均単価（13.75円/枚～16.55円/枚）が高い場合が多かったが、平成30年度は黒系の方が飛よりも平均単価が高かった。黒系の平均単価は 12.31円/枚～17.15円/枚であった。

5年間の共販の系列、等級別の平均単価は、第1回共販

では混 38.32 円/枚, 飛 34.53 円/枚, 黒系 31.35 円/枚, 第 2 回共販では混 22.34 円/枚, 飛 19.96 円/枚, 黒系 18.74 円/枚, 第 3 回共販では混 16.85 円/枚, 飛 15.19 円/枚, 黒系 13.95 円/枚であった。

各年度の第 1 回～第 3 回共販について, 混系および黒系の生産枚数に占める割合を図 3 に示した。混系の生産枚数に占める割合は調査した 5 年間全てで第 1 回共販が最も高かった (67%～97%)。第 2 回共販以降は平成 26 年度, 平成 28 年度, 平成 30 年度については混系の割合は減少傾向にあったが, 平成 27 年度および平成 29 年度については, 第 3 回共販においても生産枚数の 60%以上を混系が占めておりほぼ横ばいで推移した。この時の混系の内訳をみてみると, 混は低下していたものの, その分飛が増加しており, 結果として混系が生産枚数に占める割合は横ばいであった。5 年間の平均でみると, 第 1 回共販以降混の生産枚数に占める割合は低下する一方で, 飛および黒系の割合は増加した。混系としてみると第 1 回共販以降, 生産枚数に占める割合は低下する傾向にあった。

考 察

経験的に高価格で入札される¹⁾ことが知られていた西尾市沿岸域における混系の生産動向について, 本稿では生産枚数, 生産金額および平均単価の詳細を明らかにした。混系は第 1 回～第 3 回共販にかけて大部分 (89%～100%) が生産されており (図 2), 聞き取りによる過去の報告²⁾が確認された。西尾市沿岸域でアオノリ類の養殖が可能であるのは 12 月中下旬頃までであり, 水温が低下するにつれ成長が鈍化し生産が難しくなることが経験的に知られている。第 1 回～第 3 回共販について, 混系の生産枚数に占める割合は共販回数が進むにつれて減少するか, 横ばいの場合には飛の割合が増加していた (図 3)。水温の低下につれてアオノリ類の成長が徐々に鈍化して収量が減少することで, このような結果になったと考えられた。また, このようなアオノリ類の生態的な特徴から, 12 月中下旬までに生産された乾ノリが出荷される第 3 回共販 (例年 12 月下旬に開催) を過ぎると混系の出荷量は極端に減少するため, 年間の混系の生産枚数が少なくなっている (乾ノリ生産枚数の 8%～11%) と考えられた (図 2)。

平成 26 年～平成 30 年にかけての 5 年間の平均では, 第 1 回～第 3 回共販の混系の平均単価は黒系と比較して

高く, 各共販において混は約 2 割 (黒系比 119%～122%), 飛は約 1 割 (黒系比 107%～110%) 高い価格で入札されていた (図 3)。この結果を踏まえると, 生産枚数が少ない傾向のある第 1 回～第 3 回共販において (図 2), 平均単価の高い混系は漁業者の収益改善に大きく貢献していると考えられた。また, 混系の内訳をみるとアオノリ類の含量の多い混の方が高い価格で入札される傾向があることが明らかになった。

本調査において西尾市沿岸域で生産された混系が高い評価を得ていることが確認された。生産枚数の少なさによる希少価値の高さに加えて, 需要や消費者の嗜好といった要因も影響している可能性がある。今後はこのような社会科学的な側面からも検証を行っていく必要があるだろう。

要 約

西尾市沿岸域における混系 (混および飛) の生産枚数, 生産金額を集計し, 黒系と平均単価を比較した。平成 26 年度～平成 30 年度における混系の生産枚数は 277 万枚～369 万枚であり, 乾ノリ生産枚数の 8%～11% を占めていた。生産金額は 6,356 万円～8,334 万円であり, 乾ノリ生産金額の 15%～19% を占めていた。

混系は大部分が第 1 回～第 3 回共販までに生産され, 平均単価は黒系と比較すると, 混が 2 割, 飛が 1 割程高かった。希少価値の高さに加えて, 需要や消費者の嗜好といった要因も影響している可能性があり, 社会科学的な側面からの検証が必要である。

謝 辞

愛知県漁連海苔流通センターの職員の皆様には, 貴重な共販結果をご提供して頂くとともに, 本稿を取りまとめるにあたり有益なご助言を賜った。ここに記して感謝の意を表する。

文 献

- 1) 今泉 哲・谷川万寿夫・鈴木好男・岡村康弘 (2016) アオノリ養殖試験指導. 平成 25 年度水産業改良普及事業実績報告書. 愛知県農林水産部水産課, 43-44.
- 2) 川村耕平 (2019) 混ぜ海苔に適したアオノリ類の分布・生息環境調査. 平成 30 年度水産業改良普及事業実績報告書. 愛知県農業水産局水産課, 41-46.